

リリース ノート

RSA SecurID Authentication Agent 8.0 for PAM



2017年12月12日

はじめに

本書では、RSA SecurID Authentication Agent 8.0 for PAMの新機能、変更点、既知の不具合とその回避方法を記載しています。ソフトウェアのインストールを開始する前に、本書をお読みください。本書には、次のセクションがあります。

- [このリリースの新機能](#)
- [既知の問題](#)
- [サポートとサービス](#)

リリース ノートは更新される場合があります。最新バージョンは、RSA Link (<https://community.rsa.com/>) で参照できます。

このリリースの新機能

このセクションでは、このリリースでの主要な変更について説明します。各変更の詳細については、「*RSA SecurID Authentication Agent 8.0 for PAM インストールおよび構成ガイド*」を参照してください。

クラウド認証サービスまたはRSA Authentication Managerによる認証。 PAM agentの認証先として、クラウド認証サービスまたはAuthentication Managerのどちらかを選択できます。RSA SecurID Access Enterprise EditionライセンスとPremium Editionライセンスには、この両方のRSA SecurID Accessコンポーネントが含まれています。PAM agentを使用するために、Authentication Managerは必須ではありません。

クラウド認証サービスのRESTプロトコルのサポート。 PAM agent バージョン8.0を使用すると、ユーザーをクラウド認証サービスによって認証できます。クラウド認証サービスは、承認（モバイル向けに最適化されたプッシュ通知）、Authenticate Tokencode、デバイス生体認証、RSA SecurIDトークンなどの多要素認証方法を使用して、SaaSおよびオンプレミスのWebアプリケーションへのユーザーのアクセスを保護します。PAM agent バージョン8.0では、FIDOトークン、SMSトークンコード、音声トークンコードはサポートされません。

RSA Authentication ManagerのRESTプロトコルまたはUDPプロトコルのサポート。 PAM agentは、UDPプロトコルではなく、RESTプロトコルを使用してRSA Authentication Managerにアクセスできます。PAM agentをアップグレードした場合は、UDPプロトコルを継続して使用できます。

エージェント レポート機能。 RSA Authentication Manager 8.3には、インストールされたRESTプロトコル エージェントの管理に役立つエージェント レポートが用意されています。RESTモードでは、PAM agentは、インストールされた各PAM agentに固有のソフトウェアID番号、エージェント バージョン番号、インストール先のマシンのホスト名、エージェントが使用するオペレーティング システムの情報などの追加情報を、Authentication Managerサーバに送信できます。PAM agentのエージェント レポート機能を有効にする場合は、RESTモードでの認証エラーを防ぐため、RSA Authentication Manager 8.2 SP1 Patch 5以降が必要です。

RESTプロトコルのサポート。 PAM agentでは、UDPプロトコルを使用するよりも、RESTプロトコルを使用する方が有利な点があります。

- Authentication Manager導入環境にクラウド認証サービスを容易に統合できます。
- Authentication Managerには認証エージェント レコードを1つだけ追加して維持し、そのレコードを使って、複数のインストール済みエージェントを管理することができます。
- UDPプロトコルを使用する場合よりも容易に、複数の認証エージェントを同じハードウェアで実行できます。
- 認証エージェントがIPv4ネットワーク設定またはIPv4プロトコルを使用する必要がある導入環境で、TCPプロトコルを使用します。

- RESTプロトコルの認証モードでは、PAM agent バージョン8.0は、FIPS準拠の暗号ライブラリ モジュール fips-2.0.16とOpenSSL バージョン1.0.2iを使用します。詳細については、*OpenSSL FIPS 140-2 Security Policy Version 2.0.16* (<https://www.openssl.org/docs/fips/SecurityPolicy-2.0.16.pdf>) を参照してください。
- 新機能および機能拡張のための認証エージェントの更新回数が、RESTプロトコルを使用しない認証エージェントよりも少なくてすみます。RESTプロトコルを使用する認証エージェントは、Authentication Managerの変更を活用できる可能性が高いため、エージェントの更新回数が少なくなります。

インストーラ ログとアンインストーラ ログ。 インストールを確認するには、PAM agentのインストール ディレクトリにある**installer.log**ファイルをチェックします。PAM agentが正常に削除されたことを確認するには、**/var/pam_uninstaller/uninstaller.log**ファイルをチェックします。

RESTモードでのログ機能の追加。 RESTモードは、**log4cxx**ライブラリにより追加のログ機能をサポートしています。RESTモードでは、サイズによるログ ローテーションと、ローカルおよびリモートのSyslogへのログ出力をサポートします。PAM agentの認証メッセージとUDPモードでのログ機能は、前のバージョンのPAM agentと同じです。

RSA SecurID Authentication Agent 7.1 for PAMの機能のサポート。 バージョン8.0には、SELinuxのサポート、指数バックオフのサポート、サイレント インストール オプションなど、バージョン7.1.xの機能が含まれます。

販売終了したAIXオペレーティング システムのサポートを終了。 PAM agentでは、AIX 5.3 (32ビットおよび64ビット)とAIX 6.1 (64 ビット) はサポートされなくなりました。サポート対象のAIXバージョンにアップグレードしてください。

HP-UXのサポートを終了。 PAM agentでは、HP-UXバージョン11i v2と11i v3 Itanium (64ビット) はサポートされなくなりました。サポート対象の以下のオペレーティング システムのいずれかをご使用ください。

AIXのサポート。 このリリースでは、次のAIXオペレーティング システムがサポートされています。

- AIX 7.1 TL3 (SP5) Power 6 : 32ビットおよび64ビット
- AIX 7.2 TL1 (SP2) Power 8 : 32ビットおよび64ビット

RHELのサポート。 このリリースでは、次のRHELオペレーティング システムがサポートされています。

- RHEL 6.8 : 32ビットおよび64ビット
- RHEL 7.1 64ビット
- RHEL 7.3 64ビット

Oracle Linuxのサポート。 このリリースでは、次のOracle Linuxオペレーティング システムがサポートされています。

- Oracle Linux 6.8 64ビット
- Oracle Linux 7.3 64ビット

Solarisのサポート。 このリリースでは、次のSolarisオペレーティング システムがサポートされています。

- Solaris SPARC 10 (32ビットおよび64ビット)。アップデート8以降を推奨。
- Solaris SPARC 10.5 (32ビットおよび64ビット)、ゾーン使用。
- Solaris SPARC 11.2 (32ビットおよび64ビット)
- Solaris x86 10.5アップデート11 (32ビット)
- Solaris x86 11.2 (32ビット)

SUSE Enterprise Linuxのサポート。 このリリースでは、次のSUSE Enterprise Linuxオペレーティング システムがサポートされています。

- SUSE Enterprise Linux Serverバージョン11 SP3以降 (32ビットおよび64ビット)
- SUSE Enterprise Linux Serverバージョン12 (64ビット)

注：対応する32ビットまたは64ビット版のlibuuid.so（UUIDライブラリ）がPAM agent マシンにインストールされている必要があります。

SELinuxが、RHEL 6.8 32ビット、RHEL 6.8 64ビット、Oracle Linux 6.8 64ビットで有効になっている場合は、RSA SecurID Authentication Agent 8.0 for PAMをインストールする前に、必要な追加パッケージをインストールする必要があります。詳細については、「RSA SecurID Authentication Agent 8.0 for PAM インストールおよび構成ガイド (OracleおよびRHEL用)」の「SELINUX要件」を参照してください。

RSA Linkでのマニュアルの公開。最新のマニュアルは、ソフトウェア キットに同梱されたものではなく、RSA Link (<https://community.rsa.com/community/products/secuid/authentication-agent-pam>) から入手してください。

既知の問題

このセクションでは、このリリースで未解決の問題について説明します。

バージョン7.1 Patch 2 (7.1.0.2) は、デフォルトの/optインストール ディレクトリからのみアップグレードできません。

トラッキング番号 : AAPAM-677

問題 : バージョン7.1.0.2がカスタム ディレクトリにインストールされている場合、バージョン8.0のインストーラは、バージョン8.0の新規インストールを開始しようとします。アップグレードは、バージョン7.1.0.2がデフォルトの/optにインストールされている場合にのみサポートされます。

回避策 : バージョン7.1.0.2をアンインストールして、バージョン8.0をインストールします。手順については、「RSA SecurID Authentication Agent 8.0 for PAM インストールおよび構成ガイド」を参照してください。

サポートとサービス

RSA Link (<https://community.rsa.com>) で、コミュニティとサポート情報にアクセスできます。RSA Linkでは、よくある質問への回答や、既知の問題の解決方法を含むナレッジベースを公開しています。また、製品ドキュメント、コミュニティ ディスカッション、ケース管理なども公開されています。

RSA Ready Partner Program Webサイト (www.rsaready.com) では、RSA製品との連携が検証されたサードパーティのハードウェア製品およびソフトウェア製品に関する情報を提供しています。このWebサイトでは、RSA製品とサードパーティ製品の連携方法について、ステップバイステップで説明した実装ガイドおよびその他の情報を提供しています。

Copyright © 2007-2017 Dell, Inc. or its subsidiaries. All Rights Reserved. Published in the USA.

商標

Dell、RSA、RSAロゴ、EMC、およびDellまたはEMCが提供する製品及びサービスにかかる商標はDell Inc.またはその関連会社の商標又は登録商標です。その他の商標は、各社の商標又は登録商標です。RSAの商標のリストについては、www.emc.com/ja-jp/legal/emc-corporation-trademarks.htm#rsaを参照してください。

知的財産の情報

このソフトウェアには、Dell Incの知的財産、またはサードパーティからDell Incにライセンスが付与されている知的財産が含まれています。このソフトウェアおよびその中に含まれる知的財産の使用は、Dell Inc.またはその関連会社により、またはその代理人により提供される使用許諾契約の条項の内容に明示的に制限されています。

オープンソースライセンス

この製品にはオープンソースコードが含まれており、該当するオープンソースライセンスに準拠して使用が許諾されます。このようなソースコードのコピーをご希望の場合、該当するオープンソースライセンスで利用可能なソースコードのコピーのみをDell Incまたはその関連会社から提供します。Dell Incまたはその関連会社はかかる配布に際し、妥当な送料および手数料を請求するものとします。Dell法務 (Dell Legal, 176 South St., Hopkinton, MA 01748, ATTN:Open Source Program Office) まで書面にてご請求ください。